

1年を振り返っての感想

北九州県土整備事務所宗像支所 加藤涼大

宗像支所に配属されて1年が経とうとしている時期に、このような機会が巡ってきたので、この1年を振り返りたいと思います。

高卒で入庁し、今までバイトをしたこともなかった私は、社会経験が皆無に等しい状態でした。不安でたまらなかつた辞令交付式が昨日のことに感じられます。かといって、今、立派に社会人、また公務員としてやっているかと聞かれると、それにはまだまだ年月がかかりそうです。

周りの先輩方や、上司の方々に支えられながら、普段の業務に追われていると、1年という月日の流れが、学生のころと比べ、圧倒的に早く感じます。気づいたらもう3月になるというのに、自分は成長できているのだろうか、と不安になります。唯一、成長を感じたのはパソコンのブラインドタッチができるようになったことくらいです。

私は、普段の仕事では道路・河川の維持補修業務をさせてもらっていますが、工事の本数が多く、また、道路・河川の両方に携われるため、自分にとって非常に良い経験になっています。日々の仕事は、新しいこと・知らないことだらけですが、先輩、上司の方々は、「いつでも相談していいよ」と言ってくださり、いつも気にかけてくださっているので、分かることが少しずつ増えてくる喜びを感じながら、毎日を過ごしています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、飲み会が1回しかできていないので、最後に送別会ができればなと思っています。たった1回の飲み会でも、その次の日から、業務を行っていく中で相談等もしやすくなり、距離がぐっと縮まったように感じたので、早くコロナウイルスが落ち着いてくれるのを祈るのみです。

入庁したての頃、私の公務員に対するイメージは、全員がスーツでビシッときめて、堅苦しいものだという風に思っていました。実際、入庁後3日ほどは、事務所にスーツと革靴で出勤していました。しかし、周りを見渡すと、作業着に身を包み、雰囲気は堅苦しいどころかアットホームであり、イメージとのギャップに衝撃を受けました。今でもクローゼットで息をひそめているスーツたちが活躍してくれるのは何年か先になりそうなので、今の私は県の作業着が似合うよう知識・経験を積んでいこうと思います。

冒頭でも述べた通り、私は社会経験が皆無で、働いてお金をもらうことはもちろん、一人で生活していくことも初体験でした。ホームシックに襲われることもありましたが、今では一人の時間を、自分なりに楽しめていて、質のよい

ワークライフバランスを形成できていると思います。これから先何十年と続くであろう公務員生活をより充実したものにするため、今はしっかりとした土台を作れるよう、日々を過ごしていこうと思います。